

株式会社大林組

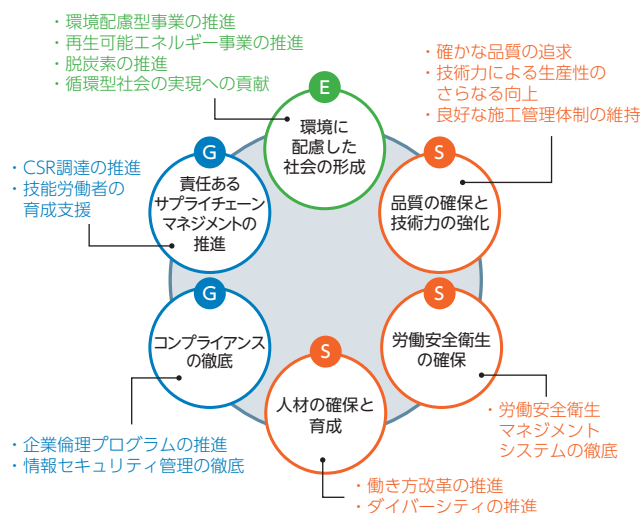
ビジョン策定・組織改編などを通じたESG経営の強化

大林組グループでは、ESGおよびSDGsの考えにも合致する「大林組基本理念」が経営の根幹に位置付けられている。この基本理念は、「地球に優しいリーディングカンパニー」として持続可能な社会の実現を目指す企業理念、「社会的使命の達成」と「企業倫理の徹底」を進める企業行動規範、創業以来受け継がれてきた「三箴（さんしん） 良く、良く、速い⁵」の3つから成り立っており、事業活動の中で実践されてきた。近年は、サステナビリティに関する社会的ニーズの高まりや、株式市場の情報開示の要請などを受け、その取り組みを強化させている。

持続可能な社会の実現に向けて今や必須ともいえる長期ビジョンについて、大林組は2011年に中長期環境ビジョン「Obayashi Green Vision 2050」を策定していた。2019年6月、これを発展させる形で、ESGの取り組みとSDGs達成への貢献を視野にいたした「Obayashi Sustainability Vision 2050」に改訂。この長期ビジョンは、同社グループが目指す2050年のあるべき姿を定義している。

本ビジョンを実現するための足元の計画としては、5カ年の中期経営計画2017がある。この中で、従来から取り組まれていたESGがはじめて明記され、技術、人材・組織に加えて、ESGが経営基盤戦略の3本柱の一つに掲げられた。その後、ESG経営の着実な推進に向けて、事業活動をESGの視点から再評価し、優先的に取り組むべき「ESG 6つの重要課題」と、それぞれの課題解決に向けたアクションプランおよびKPIが2019年に設定された。2022年4月から始まる次期中期経営計画の策定にあたっては、事業環境の変化やSDGsで目指す2030年といった時間軸なども踏まえ、検討を行っていくという。

ESGとSDGsをグループ全体で効果的に取り組むために、2019年1月に組織改編も行われた。ESGを根幹としたグループ経営戦略を総合的に立案・推進する部門として、グループ経営戦略室が設置され、その中に「ESG・SDGs推進部」が新設されたほか、経営企画部、事業統括部、経営基盤イノベーション推進部が置かれた。担当役員が同室長兼任となったことで、部門間のコミュニケーションや連携がとりやすくなり、シナジー効果を感じているという。



6つのマテリアリティとアクションプラン

KPIの設定や情報開示には、業界特性上の困難もある。例えば、建設業に関わる品質や性能は、法規制をクリアした上で顧客の要望に応えるものを完成させることが当たり前となっている。顧客の担当者の主観によらず満足度を客観的に表すのは難しく、各社のノウハウに関わる部分を適正に評価できるような指標が存在しない。またサプライチェーンも非常に幅広く、業種も多岐にわたるため一つの評価軸が当てはまらない。それでも投資家からの情報開示の要求は年々高まっており、且つ、詳細で要望もそれぞれ異なっている。そのため、タイムリーにどのような情報を開示するかの見極めが難しいという。そうした中でも大林組では、機関投資家、アナリストを対象とした見学会を10年以上前から開催しており、代表的な工事現場を実際に見てもらうことで、投資家などとの相互理解に努めている。

この他にも、大林組ではグリーンボンド、サステナビリティボンドを発行し、資金調達面でもESG経営を進めている。この活動を通じ、財務面では資金調達の幅や投資家の裾野の広がりを感じるとともに、ノウハウの獲得と経営姿勢を内外に示すことができたという。今後も引き続き、ESG経営が実践・強化されていくことが期待される。

⁵ 優良な工作物を廉価で、短い工期で提供すること。「箴」は戒めの意味。